

和田地域めぐり

散策コース

～ ふるさとの風景を満喫！ ～



佐倉市立和田公民館

和田地域めぐり散策コース

フルコース（14.9km）

和田ふるさと館 [START] []

【下勝田】

隠れ里...1.1km []

清水...1.0km []

【上勝田】

レンガ造りアーチ橋...0.8km []

【下勝田】

勝間田の池...2.1km []

【米戸】

ポニー牧場...0.5km

諏訪神社（蚕神供養塔）...0.5km

いぼ神様...0.35km []

<< 上別所まで >>...1.1km

...上別所の辻の斜め右へ上がっていく道に行く... []

天辺バス停：コンビニ（ファミリーマート）...上別所から 2.0km []

・トイレ

上別所を經由し直弥を横断、「天辺バス停：コンビニ（ファミリーマート）」へ出る

・トイレ/休憩/公衆電話（コンビニ：ファミリーマート、直弥公園）

上別所から天辺バス停までは、里山/田園風景を十分満喫できるが、途中高低差があり民家もない

【直弥】

「親はうま酒 子は清水」の清水...0.6km []

・商店（自動販売機：林カ商店）...子は清水から 1.0km []

【天辺】

宝寿院（昔話「仏も歩ませ給う」、「渋無蕨」）...商店から 0.65km []

【直弥】

宝金剛寺（北条氏勝の墓）...0.65km []

【八木】

庚申塔（八木）...1.35km []

矢弦橋...0.9km []

房田本家...0.4km []

和田ふるさと館 [GORL]...0.9km

短縮コース（8km）

和田ふるさと館 [START] []

【下勝田】

隠れ里...1.1km []

清水...1.0km []

【上勝田】

レンガ造りアーチ橋...0.8km []

【下勝田】

勝間田の池...2.1km []

・レストラン（休憩：森のレストラン）...2.25km

和田ふるさと館 [GORL]...0.75km

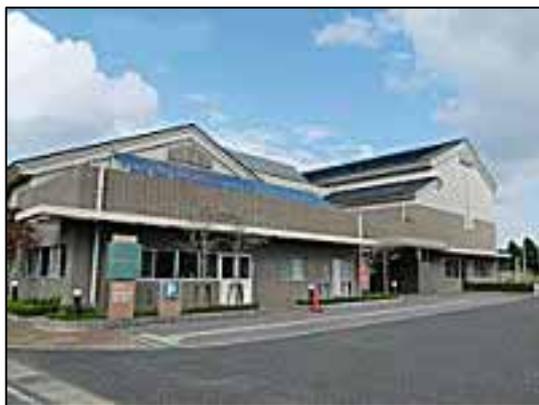
【 】和田ふるさと館

和田地域めぐり散策コースの発着拠点。

駐車場として、トイレなどの休憩場所としても活用できます。

和田ふるさと館は、出張所、農産加工実習所、高齢者談話室、地域防災集会所、歴史民俗資料室、そしてホールを兼ね備えた複合施設として平成 11 年 12 月にオープンしました。

太陽光発電設備の設置やトイレの水に雨水を利用するなど、環境に配慮した施設となっています。



【 】隠れ里（かくれざと）

下勝田から直弥に通ずる道路の左側の水田に面したところに南向きの崖がある。

その中腹に洞窟どうくつがあって、俗に「隠れ里」と呼んでいる。

あるいは八木房田まで続いているなどと言われるが、昔、夜更けて人が寝静まると、ここから米を搗つく音が聞こえてくる。

そして村人が什器の不足にこまるとき、そこへ行って「お膳 100 人前、貸してください」といえば、翌朝は必ずこの付近に並べられており、使用後もとの位置にもどしておく、いつの間にか見えなくなっている。

まことに不思議なことだと伝えられている。しかも、これはかの天慶の乱(939)の落武者が隠れ住んで、なせる業だというのである。



椀貸し伝説は「たんたん山」にも伝えられているが、これは、九州から東北地方まで広く分布している。

しかも、狭い地域に相接近して伝えられているのが普通である。

そして下勝田では、旧家である八木の房田の背戸山まで通ずる地下道があり、隠れ里と結びつく椀貸し伝説は、たまたま通行を許された者が、たいていは家が富み、永く栄え、旧家として久しく家柄を誇るのがごく普通の形式であるが、ここではこの後の部分が忘れられてしまっている。

【 】 清水

コース途中にある清水。真夏でも水が枯れることはなく絶えず流れています。

和田の清水で顔を洗い、喉を潤したら元気がわいてくるかもしれませんね。



【 】 レンガ造りアーチ橋

明治30年5月に総武鉄道は佐倉・成東間が開通、さらに6月には成東・銚子間が開通します。

アーチ橋は総武鉄道の開通に伴い建設されたもので、陸橋である上勝田第一アーチ橋は延長3.66mの煉瓦造りアーチ橋で翼壁の天端には軒蛇腹がみられ、アーチ部は煉瓦4枚巻きになっています。

第一アーチ橋の約50m南を流れる南部川にも同様の煉瓦造りアーチ橋（上勝田第二号橋梁）が架けられています。

鉄道の敷設によって近代の陸上交



通は大きく変わりましたが、このアーチ橋は近代化の一つの象徴といえます。

また、大正3年（1914）南酒々井駅（酒々井町）が開業したことも、和田地区にとって大きなできごとでした。

【 】勝間田の池（かつまたのいけ）

勝間田の池は名勝地として知られています。

池の中ほどに突き出た半島状の地に巖島神社が祀られています。

この池に西行法師が来訪したという伝承があり、その時に詠んだと伝えられる歌をふくむ歌碑が巖島神社のかたわらに建立されています。

また、この勝間田の池は嘉永3年(1850)に編集された『下総名勝図会』(宮負定雄みやおいさだお著)に挿絵を付して記されています。



<<勝間田の池の主>>

下勝田の勝間田の池では、ある百姓がつりをしていたが、一天にわかにかき曇り、烈風とともに強雨の振りだすとみるや、たちまち水しぶきと共に、腹の赤い大蛇のごときものがおどり出た。

くだんの百姓、あまりのことに腰をぬかし、池にはまり込んでしまったが、やがてはうようにして家に帰りついたという。

この大蛇は、いわゆる「池の主」で、水神がその姿となってあらわれたものであり、そういう水神信仰はかなり古くから広範囲にわたってなされていたものようである。

水稻栽培を主たる生業とするわが国で、水の便りを仰ぐこと厚く、水の神こそ穀物の豊穰をもたらずものとして、信仰を集めたであろうことは想像にかたくない。

【 】いぼ神様

米戸の道陸神は、いぼ神様といわれ、足の神様であるとともにいぼ神様なのである。

イボができればそこにある萩はぎの箸はしではさみ、祠のまわりの木にその箸をなすりつけると、イボはとれるというのである。

そしてとれた人は萩の箸を10膳作っておかえしするというのであるが、いまなおそうして参詣する人が多いのである。

道陸神は一般には足の神様として信じられているが、必ずしもそうばかりではない。

下勝田では、石に触れた手で目をこすると眼病がなおるといわれ、上勝田では石をかりて来てこすると荒れ性がなおるので、お礼として同じような石を一つつけてかえすのである。



【 】上別所の辻の斜め右へ上がっていく道
道がいくつかあるので、間違えないよう
にしてください。



【 】「親はうま酒 子は清水」の清水

直弥に「子は清水」と称する旧家がある。当家に昔、大変な孝行息子がいた。その父は大変な酒好きで、孝行息子は、いつも薪を集めてはこれを買ひ、酒の元手にあてていた。やがてこの真心は天にも通じたのであろうか。酒にかえる薪のなかったとき、門辺に湧き出る清水を瓢に入れて父にすすめたが、飲むほどに心地よく酔ってゆくのである。あまりの不思議に孝行息子が口にすれば、それはすばらしい涼水であった。以来、孝行息子は酒を買わず、父は常に心地よく酔ったといい、あの養老の滝の故事はここにもあったのである。この清水は今も門口に残っている。



そして、これに似た話は、志津にも伝わっているし、印旛郡酒々井町や四街道市吉岡にもあり、いずれも等しく、親が飲めば酒、子が飲めば清水で、それぞれ清水の湧くところがある。

なかでも酒々井は「さかずきの井戸」と呼ばれ、そのため、この地を酒々井というようになったと伝えられている。

現在は民間の管理地となっているため、入口に柵がしてあります。

敷地内は普段、人の出入りがないことから落ち葉や枯れ枝などが散在しています。

見学する際には足元に十分注意し、ゴミを捨てたり草木の採取などは絶対にしないでください。

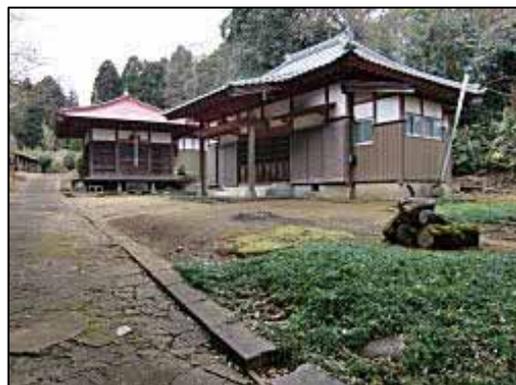
【 】商店

懐かしい風情の雑貨屋さんです。
自動販売機やポストもあります。



【 】宝寿院（ほうじゅいん）

『下総国印旛郡天辺村地蔵菩薩縁起』によると天辺宝寿院の地蔵尊は「その昔、応永の乱(1399)に高崎に兵火あるのよしを、地蔵尊老僧の姿にて10日以前に3夜まで声高に触回りかば、人々これを怪しみ、跡をたいつるに、この寺に帰り給へり。果たして兵火来たりければ、諸人愛宕あたごの本地仏となりとて信じ奉りき。其の後は、他所より火防の守札を乞ふ者多かりき」とあり、3夜にわたって、兵火のあることを前触れして、わたり歩いたというのである。



【 】宝金剛寺（ほうこんごうじ）

直弥にある宝金剛寺は大日如来を本尊とする真言宗の寺院で、由緒によると鎌倉時代初期の建仁3年(1203)將軍源頼家が、北条時政を奉行に命じ創建させたと伝えられています。

開山は覚濟僧正といわれ、古くは宝金寺と称しました。

のちに、小田原の後北条氏の一族で玉縄城主北条氏勝(1559～1611)が岩富城主に封ぜられると、この寺の大檀那となり数々の寄進を行ったことが『宝金剛寺由来記』（宝暦元年



1751)に記されています。

この寺の裏には北条氏勝の墓跡と伝えられている場所が残されています。

【 】庚申塔（こうしんとう）

庚申塔は、庚申塚ともいい、中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のことです。庚申講を3年18回続けた記念に建立されることが多いとのこと。塚の上に石塔を建てることから庚申塚、塔の建立に際して供養を伴ったことから庚申供養塔とも呼ばれるそうです。

庚申講（庚申待ち）とは、人間の体内にいるという三尸虫という虫が、寝ている間に天帝にその人間の悪事を報告しに行くのを防ぐため、庚申の日に夜通し眠らないで天帝や猿田彦や青面金剛を祀って宴会などをする風



習です。

庚申塔の石形や彫られる神像、文字などはさまざまですが、申は干支で猿に例えられるから、「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿を彫り、村の名前や庚申講員の氏名を記したものが

多いそうです。同様の理由で庚申の祭神が神道では猿田彦神とされ、猿田彦神が彫られることもあります。また、猿田彦神は道祖神とも信仰されるため、庚申信仰が道祖神信仰とも結びつ

くこととなりました。さらに仏教では、庚申の本尊は青面金剛とされるため、青面金剛が彫られることもあるそうです。

[Wikipedia より]

【 】矢弦橋（やげんばし）

八木に「房田の家」がある。これは、妙見様を祀り、千葉家に由緒深い家柄のようだが、この家の裏の台地は馬場と呼ばれ、前面の台地の勝負込に八木罌があったころの馬場だという。

この両台地に通ずる道路の半ばに小川があり、矢弦橋が架けられている。この橋は、昔両台地に敵陣互いに相対したとき、射あった弓の矢がぶつかり、しきりに落ちたので、この名があるという。



現在は道路の下に水路が通っているため“橋”はありません。

【 】房田本家

昔話の“矢弦橋”に登場します。

この散策コースにおいて、散策中における事故や道に迷った場合などのトラブルについて公民館では一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。

【出典】

佐倉市教育委員会発行

佐倉市文化財ガイドブック「佐倉細見」

「たんたんやま」

佐倉市立和田公民館発行

「和田の伝承」

佐倉市立 和田公民館

〒285-0065

千葉県佐倉市直弥 59

電話・FAX 043-498-0417

2011年4月 Ver.1.3